

阪」と書かれていたが、町名制定にあたり「逢阪」の方が採用された。その名称は関の名（逢阪関）になぞらえてよんだとも、他説では聖徳太子と守屋大連の二人がお互いの信じる方法を比べあわせた巷といわれた「合法四会」に近いことにより合坂（おうさか）と名づけたものとも伝えられるが、あくまで口伝にすぎない（『大阪府全志』巻之二）。

12.小橋町（おばせちょう）

『日本書記』仁徳天皇紀に「十四年冬十一月、猪甘津に橋を為る。即ち其處を號けて小橋と曰う也」（原漢文）と見え、当地付近にこの小橋が設けられたことに由来する（『大阪府全志』巻之二）。また、『古事記』の仁徳天皇記には「小橋江を開削した」との記述がある。さらに神功皇后の側近であった雷大臣の子の大小橋命の館舎が付近にあったことにもよるとされている。

13.勝山（かつやま）

明治23年に東成郡生野村に開設された府立農学校に達する通学路が後勝山古墳を貫通して設置された当時から古墳にちなんで勝山通と俗称してきたことに由来する。道路が四天王寺東門道を延伸させたものであることによる。

14.空清町（からきよちょう）

昭和40年、清堀町、八丁目中寺町、空堀通二・三丁目、餌差町、上本町筋三丁目の六町の各一部の合併にあたり中心地域となった空堀通と清堀町の両町名を合成して空清町となった。

15.烏ヶ辻（からすがつじ）

天王寺村当時の字名に由来する。

16.空堀町（からほりちょう）

当町域が東北東から西南西に斜行して存在する豊臣秀吉築造の外堀（南惣構え堀）を擁することに由来する。外堀は大阪冬の陣の講和後に埋め立てられ空堀となった。

17.北河堀町（きたかわほりちょう）

町域南部に小川が流れて往時、堀越町に所在した庚申池に注いでいたが、その小川は延暦7年（788）和気清麻呂によって着工され、失敗に終わった河内川導水の堀川跡との考え方があり、天王寺七か村の一つである河堀村旧地であったことにも由来する。冠称の「北」は小川の北側を町域とすることによる。



河堀口（浪花百景）

